

第 57 回大阪建築コンクール入賞発表

①募集期間 平成 23 年 2 月 16 日(水)～2 月 28 日(月)

②募集範囲

	大阪府知事賞部門	渡辺節賞部門
応募者の資格	応募作品の設計者／大阪府建築士会正会員	応募作品の設計者／ 竣工検査済証発行日現在 39 歳以下の大阪府建築士 会正会員
対象建築物	住居用建築物（併用は含むが、複合建築物で一部分のみ住宅の場合は除く） 第 1 部：一戸建住宅 第 2 部：共同住宅	建物の種類・規模は 問わない
建築位置	大阪府：全域 滋賀県：大津市、草津市 京都府：京都市 長岡京市、向日市、八幡市、大山崎町、亀岡市、宇治市、城陽市、京田辺市、相楽郡 兵庫県：尼崎市、伊丹市、西宮市、芦屋市、神戸市、明石市、宝塚市、川西市、猪名川町、三田市、 三木市、加古川市、姫路市 奈良県：生駒市、奈良市、香芝市、生駒郡、北葛城郡 和歌山県：和歌山市	近畿二府四県 大阪府・滋賀県・京都府・ 兵庫県・奈良県・和歌山県
竣工年月日	平成 20 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日の間に竣工し、竣工検査済証の交付を受けた建築物	

③応募総数 54 点 大阪府知事賞部門 第 1 部：26 点 第 2 部：10 点 渡辺節賞部門 18 点

④審査

委員長 横内 敏人（京都造形芸術大学 教授）

委 員 ※50 音順

遠藤 秀平（神戸大学大学院 教授）

大谷 弘明（㈱日建設計 設計部門副代表兼設計部長）

倉方 俊輔（西日本工業大学 准教授）

田口 雅一（大阪芸術大学 准教授）

原田 彰（㈱原田彰建築設計事務所 代表）

南 正晴（大阪府 住宅まちづくり部公共建築室長）

審査委員会 4 回

第 1 次審査 書類、写真によって、知事賞部門 第 1 部 6 点、第 2 部 1 点、渡辺節賞 4 点選考

第 2 次審査 第 1 次審査通過作品について現地審査 2 日間

最終審査 大阪府知事賞部門：第 1 部／1 点 第 2 部／該当なし 渡辺節賞部門：1 点

大阪府知事賞部門	第 1 部	甲陽園目神山町の家 佐竹台の家 TELEVISION HOUSE	岸下真理 森村政悦
	第 2 部	該当なし	
渡辺節賞部門		House Twisted	竹口健太郎＋山本麻子

⑤表彰式・入賞作品展・講演会

●表彰式

とき 平成 23 年 5 月 30 日（月）本会通常総会式典席上

会場 ホテル大阪ベイタワー・4 階（大阪市港区弁天 1-2-1 ORC200 内 TEL06-6577-1111）

表彰内容 1. 大阪府知事賞 設計者：大阪府知事より賞状授与、建築士会会長より副賞メダル授与

2. 渡辺節賞 設計者：建築士会会長より賞状および副賞メダル授与

3. 建築主及び施工者：建築士会会長より感謝状授与

●受賞者講演会およびパネル展示

1) 受賞者講演会

日時 6 月 17 日（金）18:00～

場所 TOTO テクニカルセンター 大阪 2 階会議室

2) 入賞作品パネル展示

期間 7 月 25 日（月）～8 月 5 日（金）

場所 大阪府庁別館 1 階ロビー

社団法人大阪府建築士会 540-0012 大阪府中央区谷町 3-1-17 ジョイント大手前ビル 5F
本件の問合せ先 担当者／中塚 電話 06-6947-1961 fax06-6943-7103 メール nakatuka@aba-osakafu.or.jp

審査経過並びに総評

審査委員長 横内 敏人

東日本大震災から1ヶ月、復興計画は遅々として進まず、原発事故もその終末の見通しはおろか、その真相さえわからない時点での審査だったこともあり、今回はこれからの社会のあり方や建築とエネルギーの関係など、考えさせられることの多い審査となった。



結果的に知事賞は、設計思想が全く対称的な2作品に与えられることになった。今年は住宅が審査対象となる年だったが、この結果は住宅のみならず、今の建築界が抱える異なった2つの価値観と方向性を反影するものだったように思う。つまり近代主義をこのまま追求し、技術革新を続けることで、さまざまな問題を打開して行くのか、それとも近代主義の反省の上に立ち、新たな文明の基軸となる生活の倫理観を根本から提示し直すのかという問題だ。審査委員の中でも意見が分かれ、私個人の中でも確信が持てずにいる今日のこの2面性が、苦しくも反映された形となったという意味で、興味深い結果となった。

審査はまず図面と写真により応募総数54点の中から現地審査の対象となる11作品が選ばれた。内訳は新人賞である渡辺節賞の対象作が4作品、大阪府知事賞部門第1部（一戸建住宅）が6作品、第2部（共同住宅）が1作品であった。それらを3月29日、4月11日の2日間で現地審査した後、11日の夜に最終審査を行った。

まず知事賞部門第1部（一戸建住宅）だが、各審査委員が最優秀作品1つと優秀作品1つを投票し、それらを集計した。その結果岸下真理さんの「甲陽園目神山町の家」が7名の審査委員の内審査委員長も含めた4名の最優秀票を獲得したのですんなりと受賞が決定した。「甲陽園目神山町の家」は急傾斜の崖地に建つローコストの小住宅で、外観は単純な形であるにもかかわらず、基礎が乗る岩盤の傾斜に合わせて床が複雑にスキップしており、それらが変化に富んだ内部空間をつくり出している。その内部は、基本的にはスキップフロアによるワンルームであり、谷底の涼しい風が家中に行き渡るような環境に配慮した心地良さをそなえていた。また、必要に応じて空間を仕切るための建具も注意深く仕組まれていて、住宅設計として心にくいものだった。内部の床、壁、天井仕上げすべてラワンベニアだったのは審査委員の中でも好き嫌いが分かれるところだったが、着色された赤褐色の色合いのせいでベニアの存在感がうすれ、隠影が美しく、マッシュヴでモノリシックな空間に見えたのは新鮮な印象だった。いずれにせよ、環境に対する謙虚さが高い評価を受けた作品だったと言える。

審査の中でもう一作品2票の最優秀を獲得したのが森村政悦さんの「佐竹台の家 TELEVISION HOUSE」だった。しかし、この作品を受賞作とするのか否かで大きく議論の分かれるところとなった。これは免震構造を積極的に住宅のフォルムとして取り込んだもので、崖地にそっとへばりつくような「甲陽園目神山町の家」とは対照的に、周辺の住宅地から隔絶して空中に浮かびあがるようなSF的なフォルムをし

た住宅だった。免震構造をデザインのテーマとする積極性や、精緻なディテールやプロダクトとしての完成度は高く評価されたが、住宅としてのプライバシーや居住性、そもそもこれほどのハイテク技術が住宅に必要なのか、空調設備への過度の依存などが問題点として指摘された。しかし今後の建築のあり方を考えた時、確かに環境に配慮し、順応し、人間の欲望をおさえ、近代化の行きすぎに対し、反省する態度は必要であるが、それだけでは後もどりするだけであり、今日の状況を打開するためには技術革新と創造性を希求する態度もまた不可欠であるという結論に達し、「甲陽園目神山町の家」とは正反対の傾向をもつ作品ではあったが、長い議論の末、受賞作とすることにした。

受賞したこの2作以外にも「千里の家 ラウムプラン再考」は高い評価を得た。構造計画やスキップフロアによる内部空間の構成が素晴らしく、ディテールの完成度も高い作品だったが、近代主義の作法やボキャブラリーに対してあまりに教条的であった点で評価が分かれ、賞をのがす結果となった。

共同住宅部門の審査については「本泉寺集合住宅」の1作品のみが現地審査の対象となったが、集合住宅にしてはあまりに条件が特殊だったため、完成度は高い作品だったが、本年度は受賞者なしと決定した。

最後に新人賞である渡辺節賞の審査を行ったが、投票したところ、7名中5名の票が竹口健太郎さんと山本麻子さんの「House Twisted」に集中する結果となった。すんなり決まるかと思えたが、作品の評価について委員からさまざまな意見が出た。タイトルの通りひねりを加えた細長い建物の配置と、それによってつくり出される内部空間がユニークな作品であり、建築としてのインパクトがとても強いことは高く評価できる。しかし一方で、周辺のコミュニティやコンテクストに対してあまりに唐突で、閉鎖的で、独善的であること、エネルギーコストの高い鉄骨造を採用することの是非、ネオモダンミニマリズムが地域社会に何をもたらすのか、などが問題点として指摘された。しかし、作品の完成度は一定のレベル以上のものがあり、古くからある地域社会にあえて異物を投入し、そこに新たな目に見えない何かを発生させようとする作者の意欲を高く評価し、今後関西を背負って立つ作家に成長することを期待して、竹口・山本両氏に渡辺節賞を授与することを決定し、すべての審査を終えた。

長時間に及ぶ審査を終え、帰宅の途中、私はなぜかすっきりしないものを感じていた。それは1つには審査を通じて自分の中にある迷いが顕在化してしまったこと。もう1つはその迷いを解いてくれるような新しい思想が応募作品の中に見出せなかったことに対する欲求不満のようなものだったのかも知れない。いずれにせよ、建築業界全体が抱える近代主義依存症ともいえる体質は、世代にかぎらず根深いものがあるという印象を強く残す1日だった。次の時代の建築の思想とはいかなるものなのだろうか。震災による犠牲にむくいる意味でもその結論を急がなければならないと感じた。

●大阪府知事賞部門 第1部 [一戸建住宅] 入賞作品

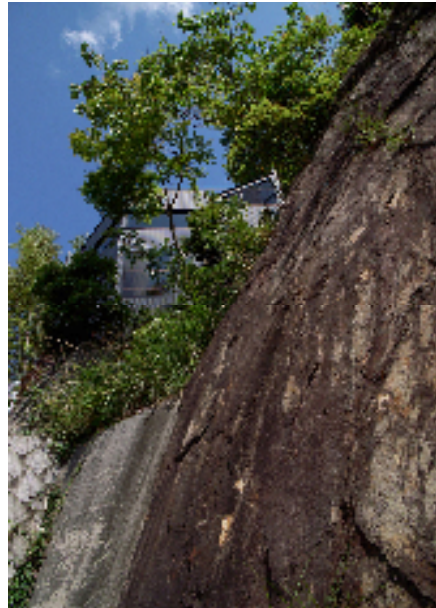
甲陽園目神山町の家

設計者 ^{きししたしんり} 岸下真理 (Atelier KISHISHITA)

*概要

建築位置 西宮市甲陽園目神山町 1-27
建物用途 一戸建住宅
建築主 中村尚史
施工者 月建築工房株式会社
竣工年月 2009年4月
構造 木造一部RC造
階数 地上2階
敷地面積 205.12 m²
建築面積 54.65 m²
延床面積 107.44 m²

(撮影者：岸下和代)



*審査講評

ここに家が建つのかという急角度の崖地。最上階のごく小さな外観だけが道路から見えている。すべての仕上げがラワンベニアで出来た室内では、まず横長のリボン窓からの絶景に嘆息し、下階に降りれば、今度は想像を超える奥行きある空間が現れる。さらに奥の、敷地の一番低い外部には既存の竹林が揺らめいて見える。敷地の岩盤との格闘から生み出された高低差を使って、新たな室内ランドスケープが創られた。(大谷審査委員)

*設計者プロフィール

1969 年生まれ
1989 年 金沢工業大学工学部建築学科入学
1993 年 金沢工業大学工学部建築学科卒業
1993 年 同大学大学院工学研究科修士課程建築学専攻入学
1995 年 同大学大学院工学研究科修士課程建築学専攻修了
1995 年 無有建築工房に入所
2000 年 無有建築工房を退所
2001 年 1 月 Atelier KISHISHITA を岸下和代と共同設立
現在に至る



[主な建築作品と受賞歴]

2002 年	海老江のアトリエ	第 19 回住まいのリフォームコンクール国土交通大臣賞
2004 年	椿の家	第 25 回 INAX デザインコンテスト銅賞
2007 年	但東町の賤ヶ屋	第 53 回大阪建築コンクール渡辺節賞
2008 年	但東町の賤ヶ屋	平成 20 年度日本建築士会連合会賞優秀賞
2010 年	甲陽園目神山町の家	第 5 回 JIA 関西建築家新人賞

連絡先 Atelier KISHISHITA 〒553-0001 大阪市福島区海老江 7-18-26 中堂ビル 102
TEL 06-6453-6229 FAX 06-6453-6229 メール mail@at-kishishita.jp

●大阪府知事賞部門 第1部 [一戸建住宅] 入賞作品

佐竹台の家 TELEVISION HOUSE

設計者 ^{もりむらのりよし} 森村政悦 (森村政悦建築設計事務所)

*概要

建築位置 吹田市佐竹台 5-1-16
建物用途 一戸建住宅 (車庫付)
建築主 長谷川佳江
施工者 尚建企画
竣工年月 2008年12月
構造 SRC造
階数 地上1階 地下1階
敷地面積 364.36 m²
建築面積 114.95 m²
延床面積 241.29 m²

(撮影者: 森村政悦)



*審査講評

大地から浮上する建築、ここには人工の環境を獲得する事への強い探究心が凝縮している。大地の裂け目のようなエントランスを潜り上階へ向かうと、この建築の中心部に天空へ開放された玄関ホールが用意されている。この半屋外空間を取り囲むように居住スペースが設定され、ガラス皮膜により南北方向に開放されている。免震構造を住宅規模に取り入れながら内部の構造体をバランスよく設定し、人工空間として密度ある完成度を実現していることにより高い評価を獲得した。(遠藤審査委員)

*設計者プロフィール

1960 年生まれ
1984 年 摂南大学工学部建築学科 卒業
1984 年 公成建設株式会社 入社
1984 年 好川忠延建築設計事務所 入社
1988 年 森村政悦建築設計事務所 設立

[主な建築作品と受賞歴]

1997 年 D-COURT 大阪建築コンクール 渡辺節賞
2000 年 S-COURT 大阪建築コンクール 大阪府知事賞
グッドデザイン賞
2005 年 東舞鶴の家 グッドデザイン賞
INAX デザインコンテスト 銅賞
E・家・くらし住まいの設計コンテスト 最優秀賞
2010 年 佐竹台の家 グッドデザイン賞



連絡先 森村政悦建築設計事務所 〒610-0332 京都府京田辺市興戸若宮16-1 C-COURT 2F
TEL 0774-64-7688 FAX 0774-64-7687 メール office@morimura.org

●渡辺節賞部門 渡辺節賞

House Twisted

設計者 たけぐちけんたろう やまもとあさこ
竹口健太郎 山本麻子
(株式会社 アルファヴィル)

*概要

建築位置 貝塚市北町 13 番 11 号
建物用途 一戸建住宅
建築主 O氏
施工者 株式会社 鍋谷工務店
竣工年月 2008 年 4 月
構造 S 造 階 数 地上 2 階
敷地面積 184.76 m² 建築面積 84.46 m²
延床面積 99.83 m² (撮影者: 竹口健太郎)



*審査講評

本作は自律性が高い住宅である。形態にせよ素材にせよ、近隣の木造家屋とは異質だ。しかし、そのことでかえって、周囲との連続性の中で生きる場を生み出している事実を、高く評価した。簡潔な形態操作によって内部には、建つ前には無かった空間が確かに誕生している。だから建築であり、生活のより所となる場でもある。同時にこれはリニアなプランや土間の介入、開口部の少なさによって、孤立しては成立しない住宅である。住み手は外部を必要とし、そのように暮らしていた。(倉方審査委員)

*設計者プロフィール

竹口健太郎

1971 年生まれ
1990 年 4 月 京都大学工学部建築学科 入学
1994 年 4 月 京都大学大学院工学研究科建築学教室 入学
1995 年 9 月～1996 年 7 月 AA スクール Diploma Unit 5(=FOA)
イギリス、ロンドン 留学 (ロータリー財団奨学生)
1998 年 4 月 アルファヴィル設立
現在、京都造形芸術大学、京都市立芸術大学、神戸大学他 非常勤講師



山本麻子

1971 年生まれ
1990 年 4 月 京都大学工学部建築学科 入学
1994 年 4 月 京都大学大学院工学研究科建築学教室 入学
1995 年 9 月～1996 年 7 月 パリ建築学校ラ・ヴィレット校 留学
(文部省給費留学生)
1997 年 4 月～1997 年 12 月 山本理顕設計工場 勤務
1998 年 4 月 アルファヴィル設立
現在、京都造形芸術大学、京都市立芸術大学、京都橘大学、滋賀県立大学 非常勤講師



[主な建築作品と受賞歴]

<主な作品>

2004 年 WH (W-window house)
2007 年 Hall House 1
2008 年 House Twisted
2010 年 New Kyoto Town House
2010 年 Roof on the Hill
2011 年 House Folded

<主な受賞歴>

2009 年 Design for Asia Award 金賞 (香港)
第 30 回 INAX デザインコンテスト 銅賞

HiSe Award Innovative Excellence in Private Housing 受賞 (スペイン)
JCD Design Award 2009 BEST100 入選
BEST DESIGN OSAKA クリエーターアワード 大賞
住まいの環境デザイン・アワード
2009 大阪ガス特別賞

2010 年 World Architecture Community Awards
20+10+X Projects 8th Cycle Winner
日事連建築賞 奨励賞

第 31 回 INAX デザインコンテスト 入賞
2011 年 大阪ガス住宅設計 2010 入賞

連絡先 株式会社アルファヴィル 〒615-0007 京都府京都市右京区西院上花田町 32
TEL 075-12-6951 FAX 075-312-0416 メール 001@alpha-ville.net

大阪建築コンクールの開催主旨とこれまでの経過

大阪建築コンクールの開催主旨とこれまでの経過

●大阪建築コンクール開催主旨

建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があり、その責務は重大である。

大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会の会員を表彰する。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものである。

本コンクールを通じて一般市民の皆様が、建築士についての関心と理解を深め、また、これを機会として建築士が地域社会との関わりについての自覚を更に高めることを目的としている。

●大阪建築コンクールの経緯

- 1) 設 立 昭和 29 年度
- 2) 主催者 昭和 29～52 年度 大阪府〈建築部主管〉、審査を社団法人大阪府建築士会に委託
昭和 53 年度より社団法人大阪府建築士会に主催が移管
- 3) 開 催 昭和 29 年度より現在まで、毎年開催し本年度で第 57 回を迎えた。
- 4) 目 的 当初は戦災復興と建築文化の進展を目途に、優秀な建築作品（その設計者である建築士）を表彰する。大阪府知事が表彰することで、府民の関心と呼び、初期の目的を達成。

現在は地域社会の発展と建築文化の向上について、建築士はもとより府民にも関心を持って頂き、住みよい社会をつくりだすことを主な目的としている。

- 5) 表 彰 大阪府知事賞：隔年毎に対象建築物を下記の 2 種類に分けている。

1. ノンセクション（住宅を主としたものは除く）

2. 住居用建築物（併用は含むが、複合建築物で一部分のみ住宅の場合は除く）

＊今回 57 回は住居用建築物の年

渡辺節賞（本会初代会長の故渡辺節の名前を冠した新人賞 第 24 回に創設）

＊第 57 回までで通算 256 作品を表彰（渡辺節賞 31 作品含む）

渡 辺 節

(1884～1967)

東京に生まれる。明治 41 年東大工科大学建築学科を卒業。韓国政府度支部建築所技師となる。釜山や仁川の税関庁舎など設計。同 45 年鉄道院へ入り京都駅を新築した。大正 5 年独立して建築事務所を開設。以後関西地区を中心に数多くの建築を設計した。アメリカ式の合理主義的な経済性への配慮と平面計画の堅実さ、親しみやすい形式的な意匠の適切な選択などで、現実的な関西の財界に信頼があった。また若き村野藤吾がその事務所で 10 数年の修行を重ねたことも特筆しなければならない。作品は、大阪商船神戸支店、日本興業銀行本店、大阪ビルディング、同東京支店、日本勧業銀行本店、日本綿業倶楽部などの他、枚挙のいとまがない。